



未来へつなぐ

Vol.

170



文／本間 吾里砂

二〇二四年三月二六日、春のダイヤ改正で空港アクセスを強化
日中時間帯の快速「エアポート」を毎時五本から六本へ。新千歳空港発二十二時台も

エアポートの増発で 輸送力を約二割増強

JR北海道は、三月六日に
快速「エアポート」の増発な
ど、空港アクセスの強化を中
心としたダイヤ改正を実施
します。

札幌―新千歳空港間を走る
快速「エアポート」は、九時か
ら二六時までの日中時間帯に
毎時五本から六本に増発し、
輸送力の二割増強を図りま



733系快速エアポート車両

す。内訳としては、二本を停車
駅の少ない「特別快速」、二本
を北広島から新千歳空港間
の各駅に停車する「区間快

速」、それ以外の三本を「快
速」として運転します。停車
駅が増える区間快速について
も、四号車は全区間で指定席

「シート」に設定。また、特別
快速と快速の毎時各二本は、
小樽までの直通運転となり
ます。さらに、新千歳空港発
の九時、二十三時台に「特別
快速」を新設し、札幌までの
速達化を図るとともに、航空
機の遅延にも対応します。「快
速」「特別快速」「区間快速」
の所要時間はそれぞれ異な
りますが、途中で追い抜かれ
ることもなく、先に出発した
列車は必ず先に到着する「先
発・先着」のわかりやすいダイ
ヤとなるのも特徴です。

なお、普通列車については、
札幌―北広島間で毎時二本を

運転するほか、千歳―苫小牧間
は毎時一本程度、一部は室蘭方
面と直通し737系電車によ
るワンマン運転を行います。

桑園駅に全快速が停車 H100形投入で速達化

函館線の札幌―小樽間では、
札幌駅での乗り換えおよび夕
通勤時間帯の混雑を緩和す
るため、快速「エアポート」と
快速「ニセコライナー」の四五
本すべてを桑園駅で停車しま
す。これにより小樽方面快速
列車と学園都市線の桑園駅
で乗り換えがしやすくなりま
す。また、快速「ニセコライ

ナー」を、手稲―小樽間で各駅
停車とすることで、通勤時間
帯の利便性向上および前後列
車の混雑緩和を図ります。二
方、函館線の岩見沢―旭川間
は、721系電車や普通気動
車を737系ワンマン電車や日

100形に置き換え、一部を除
き、岩見沢―滝川間でワンマン
運転を実施します。

DECMO(デクモ)の愛称
で知られるH100形は、キハ
40形気動車の老朽取り替え
のために開発した電気式気動
車で、今回のダイヤ改正では、
札幌―旭川間への投入とあわ
せて、石北線の上川―網走間
と釧路線のキハ40・54形をすべ
てH100形に置き換えま
す。これにより、キハ40形と比
べて、石北線の留辺蘂―北見間
で最大六分、北見―網走間で
最大九分の速達化を実現。
さらに夏季などの利用が増
加するシーズンを見据え、旭
川―北見間の特別快速「きた
み」を二両から二両編成へ。そ
のほか、根室線では輸送体系
の見直し、石勝線、宗谷線、石
北線、函館線では利用の少な
い駅の廃止など、状況に応じ
た改正を行います。